

質問日	令和2年3月11日(水)			質問方式	分割方式		
質問順位	6	会派名	自由民主党浜松	議席番号	5	氏名	小 泉 翠
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 水防団について	<p>近年の大型化する台風や集中豪雨などによって、全国各地で水害が毎年のように起きている。昨年の台風19号による千曲川や阿武隈川の氾濫は記憶に新しいところであり、本市においても天竜川、馬込川、安間川、芳川、新川の水位が上がり本市水防団本部・12分団92名が出動して作業に当たった。河川の近隣住民にとって、水防団は非常に心強い存在である。</p> <p>そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 昨今の大規模水害による被害を受け、水防団の役割や必要性についての考えを伺う。</p> <p>(2) 本市水防団の水防倉庫については、分団によって大きさに違いがあるが、考えを伺う。</p> <p>(3) 水防法第36条で規定されている水防協力団体のような民間との協力体制と連携について考えを伺う。</p>						柴山土木部長
2 生活道路安全対策について	<p>本市の人身交通事故の発生状況は約4割が追突事故、約3割は出会い頭の事故であり、特に出会い頭の事故は信号機のない生活道路の交差点での発生確率が高い状況である。生活道路は通学路になっている箇所も多く、事故の内容によっては登下校中の小・中学生など歩行者等に影響が及ぶ可能性も十分に考えられる。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>(1) 生活道路安全対策の重要性について認識を伺う。</p> <p>(2) 南区において生活道路安全対策として行った交差点内ハンプ設置の効果と、今後の全市展開について考えを伺う。</p>						柴山土木部長
3 浜松の魅力を伝える取り組みについて (1) 中心市街地の観光周遊性について	<p>(1) 昨年10月にレストラン街をリニューアルした遠鉄百貨店やソラモでのイベント開催などにより、中心市街地に徐々に人が戻りつつあるが、浜松駅周辺からザザシティ浜松までの周遊性には依然として課題が残っている。浜松駅周辺から観光客に中心市街地を周遊させるには、The GATE HAMAMATSUの活用が有効だと考える。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>ア 浜松魅力発信館・The GATE HAMAMATSUはことし1月にリニューアルオープンしたが、利用の現状と今後の活用方法について伺う。</p>						石坂観光・ブランド振興担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
(2) 蜷塚遺跡周辺の活用について	<p>イ The GATE HAMAMATSUと観光インフォメーションセンターを基点とした、中心市街地の観光周遊性を高める方策について伺う。</p> <p>(2) The GATE HAMAMATSU内では浜松城築城450年の展示を行っているが、中心市街地から少し足を延ばしたところにある国指定文化財の蜷塚遺跡も本市の魅力の一つである。これまで魅力を生かし切れていなかった蜷塚遺跡の活用を進めるために再整備が必要と考える。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>ア 蜷塚遺跡の現状と今後の方針について、本市の考えを伺う。</p> <p>イ 蜷塚遺跡に併設されている本市博物館は本市のルーツを知ることができる貴重な施設であるが、現状と課題、今後の方針を伺う。</p>	寺田文化振興担当部長
4 プロスポーツと子供たちのかかわりについて	<p>去年はラグビーワールドカップが日本で開催され、多くの方が観戦し大変な盛り上がりを見せた。本市にも多くの外国人が訪れ、パブリックビューイングなども開催された。また、スポーツ界ではトップリーグのプロ化が進む中、本市においてもスポーツ産業の活性化やスポーツ人口・関心層の拡大を推進していくべきと考える。</p> <p>そこで、以下3点について伺う。</p> <p>(1) 本市に本拠地を置くプロスポーツチームとの連携の現状と、今後の支援のあり方について伺う。</p> <p>(2) 子供たちと市内プロスポーツチーム所属の選手等との交流の現状と、今後について伺う。</p> <p>(3) 子供たちの可能性を広げるため、多くのスポーツにかかわるきっかけづくりについて考えを伺う。</p>	寺田文化振興担当部長
5 結婚から妊娠までのサポートについて (1) 結婚を希望する人に対する応援について	<p>(1) 本市における1年間の出生数は昨年6000人を切り5791人であった。少子化の要因の一つに未婚率の上昇が挙げられるが、25歳から34歳の方が結婚しない理由として、「適当な相手に巡り合わないから」、「結婚資金がない」が挙げられている。本市としてもこのネックを解消し、結婚を希望する人々を応援する必要があると考える。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>ア 本市では、平成28年度から平成30年度まではままつ婚活アドバイザー事業を行い、年度をまたいで重複している人も含め、28年度に15人、29年度に16人、30年度に11人の婚活アドバイザーを養成した。令和元年度では、事業委託先の浜松市シルバー人材センターに18人が登録され、4人が常駐して活動していると伺</p>	金原こども家庭部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
<p>(2) 不妊治療に対する応援について</p>	<p>ているが、今後の活用方法を伺う。</p> <p>イ 国は結婚に伴う経済的負担を減らすため、結婚新生活支援事業と称し、35歳未満の新婚夫婦に家賃や引っ越し費用を最大30万円補助するプランを用意している。国と自治体で2分の1ずつ負担するこの事業は、県内でも静岡市を初め10市町が実施しており、そうした取り組みも必要と考えるが、当事業に対する考えを伺う。</p> <p>(2) 日本の夫婦のうち5.5組に1組が不妊の検査や治療を受けたことがあると報告されている。本市でも子供を欲しいがなかなか持てない夫婦に積極的に支援をすべきと考える。</p> <p>そこで、以下2点について伺う。</p> <p>ア 不妊治療費助成の現状と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>イ 今年度より開始した、はままつ女性の健康相談での不妊相談実績について伺う。また男性不妊についても相談しやすいよう周知方法を改める考えはないか伺う。</p>	<p>新村医療担当部長</p>